

総則部会

県研究主題

学習指導要領の内容を踏まえた教育課程の編成と教育活動の工夫・改善

提案 1

提案者 三堀 仁（足柄上・下地区）

<研究主題>

E S D（持続可能な発展のための教育）の視点を取り入れた教育課程編成の工夫・改善

1 提案内容

E S Dは、環境的視点、経済的視点、社会・文化的視点から、より質の高い生活を次世代も含むすべての人々にもたらすことのできる開発や発展をめざした教育であり、持続可能な未来や社会の構築のために行動できる人の育成を目的としている。

2002年（平成14年）の第57回国連総会で、2005年（平成17年）からの10年を「国連E S Dの10年」とすることが採択された。平成20年に閣議決定された「教育振興基本計画」では、E S Dを我が国の教育の重要な理念の一つと位置付けている。

(1) 学習指導要領とE S D

① 学習指導要領との関連

中学校の社会科や理科、高等学校の地理歴史・公民・理科・家庭などには「持続可能な社会」「持続的」という文言が盛り込まれているのに対し、小学校の学習指導要領には直接的な言葉としては表れていない。学習指導要領の基本理念である「生きる力」の育成と関連付けながらE S Dを推進させることが望ましい。とりわけ総合的な学習の時間では、横断的・総合的な課題を探究的に学習したり自己の生き方を考えたりする点において、とてもE S D的であるといえる。

② E S Dの視点に立った学習指導

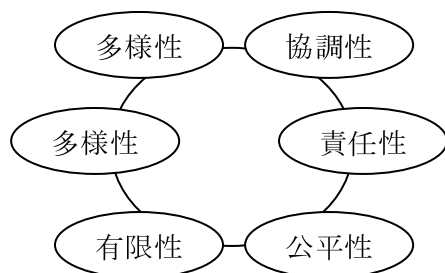
【E S Dの視点に立った学習指導の目標】

「持続可能な社会づくりに向けた課題を見だし、それらを解決するために
必要な能力・態度を身に付ける」

↑
【持続可能な社会づくりの要素】

↑
【重視する能力・態度】

【持続可能な社会づくりの要素】



【重視する能力・態度】

- ◇ 批判的に思考・判断する力
- ◇ 未来像を予測して計画を立てる力
- ◇ 多面的、総合的に考える力
- ◇ コミュニケーションを行う力
- ◇ 他社と協力する態度
- ◇ つながりを尊重する態度
- ◇ 責任を重んじる態度

(2) ESDの視点を取り入れた教育課程編成の成果

① カリキュラム開発の成果

本研究では、「学習指導要領の内容を踏まえた特色ある教育課程の編成の工夫・改善」という県教育課程研究会総則部会の具体的な研究テーマに即して取り組み、学校教育目標を達成させるためにESDの考え方を取り入れた。その結果カリキュラム開発において一定の方向性を見いだすことができた。とくに「総合的な学習の時間」の全体計画における内容面をESDの視点で整理することができた点は大きな成果といえる。

② ESDの視点を取り入れた実践的な成果

ESDの視点を単元計画に盛り込むことによって、学習活動そのものが深まり、当該の教科等の単元目標により迫ることができた。事例報告にもあるように、「二分の一人式を開こう」では、ESDの視点を導入して「すてきな大人になろう」の小単元を設定し、身近な大人とかかわって生き方や町への思いなどを知ると、「自己の生き方を考える」という総合的な学習の時間の目標に迫る学習活動を展開しやすくなる。こうした実践的な成果をみることができた。

2 研究協議

(1) ESDの視点に立った学習指導について

◇実践報告及び提案としては素晴らしいが、教育課程全体においてESDの考え方を取り入れることが難しいのではないかと。各教科等・単元の中でどこまで絞り込んで考えていくのか。

◆新しいことを取り入れるという感覚ではなく、これまで取り組んできたことをESDの視点を取り入れて整理するという感覚で取り組んだほうがうまくいくのではないかと。ESDの視点を取り入れたからといって、教育課程を大きく変えるわけではない。「少し意識する」ことが大事。まずはできるところから取り組んでみる。総合的な学習の時間・道徳・特別活動などは比較的整理がしやすかった。

(2) 特色ある教育課程の編成および実際に展開する際の手立てについて

◇グループ協議から

- ・聞く(聴く)をテーマにした全校的な取組。(聴いて、考えて、つなげる)
- ・縦割り活動等異学年の活動を積極的に取り入れているが、活動時間をどう確保するかが課題となっている。
- ・教育課程を編成する際にESDの視点を取り入れることで、それぞれの活動のねらいを明確にすることができ、学習指導要領で示された「生きる力」の育成を図る上で効果的である。この取組を継続、定着させるために教員間での成果の共有を図っていくことが大切。

3 まとめ

「子どもの実態」と「地域性」をもとにして取り組むことが大切。ESDをそのまま使うのではなく、あくまでも学校の実情、子どもの実態に合わせてどう示していくかがポイントとなる。教育課程を一つの視点から整理することで教科間のつながりや広がりが見えてくることに意味がある。この方法を取ったからといってすぐに結果が出るものではない。常に取り組み、常に振り返ることが肝要である。子どもの姿から成果を見とり、共有することで授業改善につなげていけるような学校体制づくりを目指してほしい。

＜研究主題＞

「横浜版学習指導要領」に基づくカリキュラムマネジメント

小学校教師と中学校教師の協働による授業改善に向けた取組

1 提案内容

「横浜版学習指導要領」に基づくカリキュラムマネジメントとして、小学校教師と中学校教師の協働による授業改善に向けた取組をテーマに、2つの事例をあげて提案。

(1) 小学校教師と中学校教師の協働による授業改善 I

1小2中からなるブロックで、地域にまとまりがあり、3校連絡会など小中の連携がすでにできあがっている状況にある場合の取組。

① 目的

- ア 目指す「地域の子ども像」実現に向けた小中一貫カリキュラムの編成と改善
- イ 教員の授業力向上、授業改善への取組、授業を「変える」「つなげる」「高める」
- ウ 児童・生徒の学力向上

② 取組

平成 22 年度の取組	平成 23 年度の取組
三校連絡会	全体構造図の完成、重点課題設定
合同研究会	小中一貫カリキュラム完成及び共有化
ブロック全体構造図の更新	合同授業研究会によるカリキュラムの検証
児童生徒の交流	小中児童生徒交流の推進
地域を母体とした小中交流	地域との交流

③ 全員参加によるブロック合同授業研究会の実際

- ア それぞれの小学校の重点研究日を研究会にあて、中学校教員が別れて参加
- イ 小中一貫で、「授業を変える、つなげる、高める」ための授業を展開
- ウ 中学校教員の参画：指導案検討、授業研究会、中学校教員による小学校での授業
- エ 事後のアンケート実施

④ 成果と課題

- ア 授業を見合うことが最大の研修
- イ 合同授業研究会を経験した中学校教員の意識の変化
- ウ 中学校での指導を知り、小学校はつながりを意識した授業づくりへ
- エ 小中の違いをお互いの良さとして認め合う機会になり、9年間のなめらかなつながりとなった。

(2) 小学校教師と中学校教師の協働による授業改善 II

2中4小のブロックで、地域が広範囲、学校の課題も様々な上、取り組みにくさがあるため、中学校ごとの小ブロックを設けて取組を進めた。

① 目的

- ア 小中一貫カリキュラムを協働で編成・改善し、教科ごとの授業交流や研究協議を通して、指導観・評価観を相互理解し共有化する。
- イ 小中の教師の授業力向上を目指し、児童生徒に確かな学力をつける。

② 方法

ア ブロックごとにテーマを設定

イ 授業実践・観察を通じた授業交流の実施と研究協議会

ウ 横浜版学習指導要領の「教科等編」「指導資料」「評価の手引き」を基にした小中一貫カリキュラムの編成・運営・評価・改善

③ 2つの小ブロックの取組

港中ブロックのテーマ

異文化理解のために「共生」をキーワードとした授業交流を基盤にした小中一貫のベースカリキュラムの再検討

仲尾台中ブロックのテーマ

小中のつながりを重視した授業づくりとそれぞれの授業改善。

英語授業の小中連携と中学校英語担当による小学校外国語活動の支援

④ 成果と課題

ア 継続して取り組むことで「授業を変える」「授業をつなげる」「授業を高める」ことに結び付いている。

イ 参加や参観からよりよい授業改善を目指して、小中同じ意識で参画しカリキュラム改善に向かうようになってきている。

ウ 日程調整や時間の確保は、前年度のうちに連絡調整をすると良い。

エ 小ブロックの良さを大ブロックで共有化できるように、小学校間や中学校間で情報や意見の交流も必要になってくる。

2 協議内容

「9年間のカリキュラムをどう編成し、どう運用していくか。また、どう児童理解、生徒理解していくか。」を柱に話し合った。

(1) 9年間のカリキュラム

横浜版のカリキュラムは、行政の組織的な力があってできているが、他地区では横浜市を参考にこれからどうしていくかが課題である。

小中お互いに授業の実態を知らないこともあるので、子どもや教師の実態をわかり合った上でカリキュラムの作成をしたい。

(2) 児童理解、生徒理解

9年間を知ることだけでなく、こんな風に育ててほしいという願いも大切である。単なる連携ではなく、ねらいをもって、子ども観・指導観を統一することで子どもは安心すると思う。なめらかな接続と適切なギャップが必要。

小中の教師が話し合うことは重要だが、時間の確保が難しい。

3 まとめ

なぜ、今、カリキュラムマネジメントなのか（10年に一度の見直しの時）。教育課程を組織的、計画的に運営、評価、改善していきPDCAサイクルに乗せていく。これからは、改善していくことに苦勞していくことが必要である。

学力の要素、基礎的・基本的な知識・技能が明らかに示されていることがよい。カリキュラムの改善を通して、学校経営に参画していくスタイルが望まれる。

先生方が地域の中で共同して学校経営に当たることが大事である。